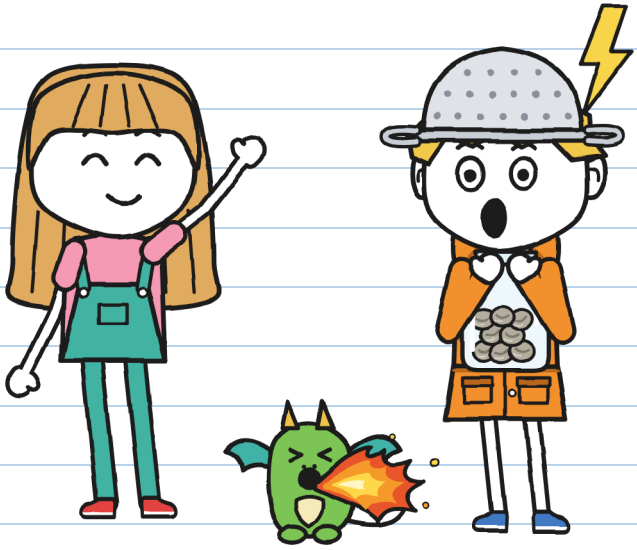
ありえない はいたつ・2

かみなり まえに あけるな

Lui Eriksson



（グニの ノート）

サイズ L
上級・11+

ありえない はいたつ・2
かみなり まえに あけるな

文と絵：**Lui Eriksson**

サイズ **L**・上級・11+

日本語版：**LinguAula**

初版：2026

© 2026 **Lui Eriksson** · **info@linguaula.com**

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

シリーズの 2さつめ。1さつめは「このにもつは かみつく」。

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この本を書いているあいだに、けがをしたかみなりは一つもいない。 —J.



そして、ほかのだれのものでもない。 ―J

見つけても、かみなり前に開けちゃだめだよ。

おはなしのなかだけ

このはんこは、お話の中だけのことをしめす：きみはやらないで。何ページもつづくときは、「ここから」と「ここまで」が書いてある。本当のあらしのときは、76ページを見て。 ―J.

だれが だれ？



グニ。どようびの はいたつやさん。あらしの ハンター（まあ、だいたい）。この ノートは グニの。



フリータ。いなびかりから かみなりまでの びょうすうを かぞえる。みどりで かいて、「J.」と サインする。



パンくず。ドラゴンの こ。グニの まねを なんでも する。ほんとうに なんでも。



トニョ。じてんしゃで イナズマびんの はいたつを する。じっぷんで とどかなければ タダ。



フローラ。うんがどおり9ばんちの にわし。いしには サインしない。



ベラさん。フローラの いえの となりの ドラゴンの いえで、ドラゴンの せわを している。パンくずは ベラさんと くらして いる。



マラさん。「ありえない はいたつ」の てんしゅ。まじょの ぼうしを かぶって いる。いうより ずっと おおくを しって いる。

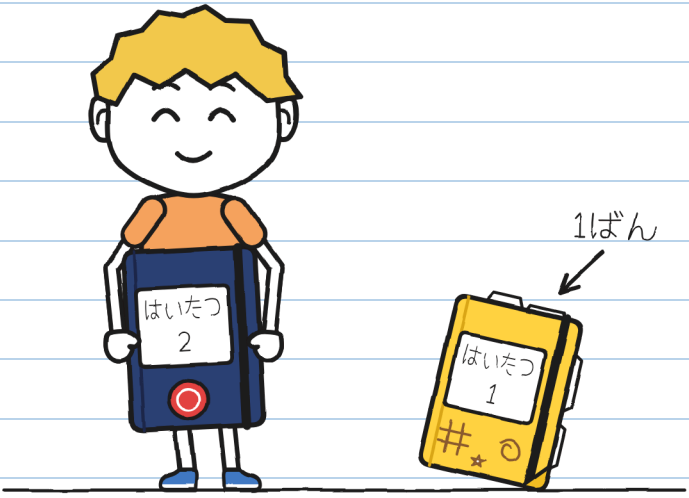


R.は、だれにも とどけられない にもつを おくるひと。その なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート2

公式。

「公式」ってことは、わたしが先に読むってこと。公式に。 —J.



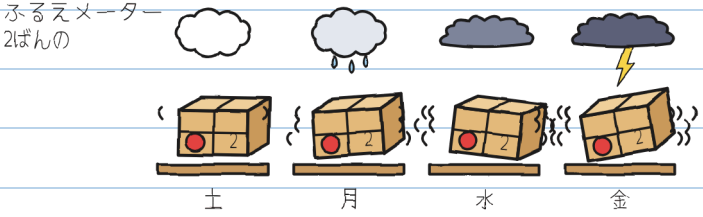
ノート1はいっぱいになってしまった。これは店のマラさんが、表紙に店のはんこをおしてくれたものだ。公式のノートに絵をかいてはいけないそうだ。さあ、どうかな。

第 1 章

あらしの ハンター

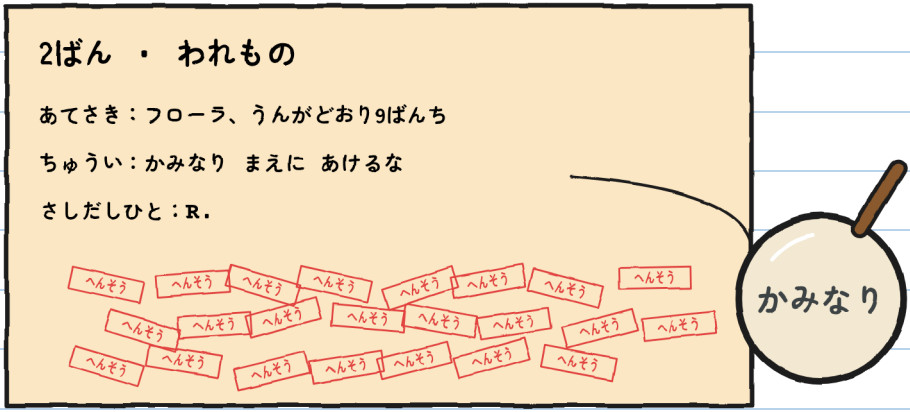
マラさんの店には、ふるえている荷物がある。先週の土曜日から、日に日にひどくなっている。
さわらないことに決めた。
最後にフリータとぼくがとどけたのはたまごで、それが今はパンくずというドラゴンの子になって、ぼくのまねを何でもする。

店の中、ぼくの家のむかいには、もどってきた荷物があと十九こある。そしてそのうちの一つは、待つのにあきたようだ。



こわくてふるえているんじゃない。あらしが来るからふるえているの。土曜日の午後六時に。天気予報（てんきよほう）は六回たしかめた。 —J.

もどってきた荷物は、うけとった人がきえないインク（フリータのみどりのペンのような）でラベルにサインをしないと、夜明けにとんでたなに帰ってしまう。送り主はいつも同じ人：R.



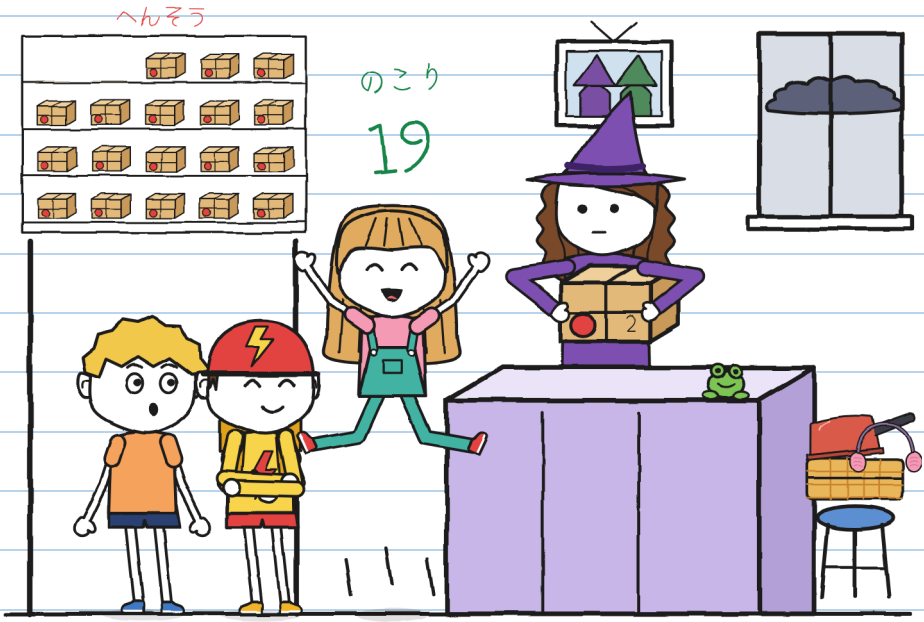
2番の荷物には、「へんそう」のはんこが二十三こおされていた。

二十三。二回数えた。 —J.

「二十三回、わたしが運んだ」とマラさんは言った。
「でもあらしの日は一度もなかった」

土曜日の十時、マラさんは2番の荷物を両手でかかえて、カウンターでぼくたちを待っていた。トニョもいた。土曜日は、三人とも1番の荷物をかってにとどけたばつで、店の手つだいだ。

「これは」とマラさんは言った。「あなたたちがとどけるのよ。今日の午後に」



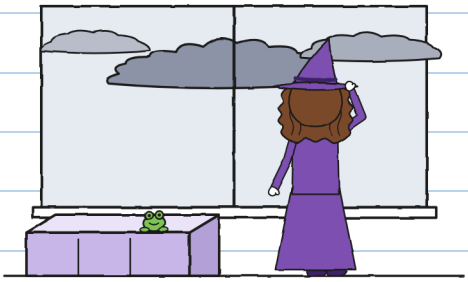
フリータは「のこり19」のふだにさわりそうなほど大きくジャンプした。

マラさんは三つのじょうけんを出して、指を折って数えた：

1. 五時、あらしが来る前に出発して、すぎるまでフローラの家にいる。
2. 家族はもう知っているし、フローラも知っている。
3. きまりはラベルのとおり：かみなり前にはあけない。しかも頭の真上に来たかみなりで、遠くのはノーカウント。

「マラさんは行かないの？」とフリータが聞いた。

「わたしはここにやることがある」とマラさんは言って、ショーウィンドウの向こうの空を見た。空はどんどん灰色(はいいろ)になっていく。



やることってなに？ ―J.

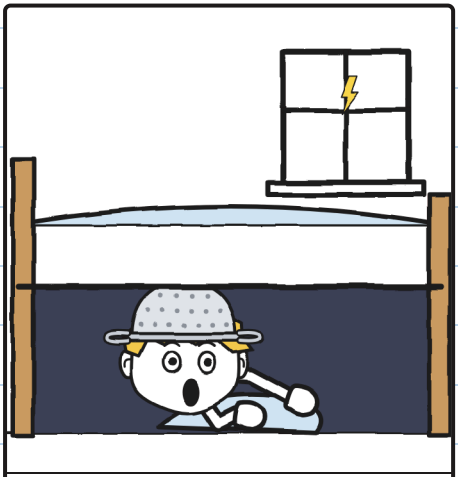
そこでフリータがぼくを見た。
「グニはあらしがすき？」

ぼくは、そんなふうに見つめられたときだれもが言うことを言った：

「だいすきだよ。前に住んでいた町では、プロのあらしのハンターだったんだ」



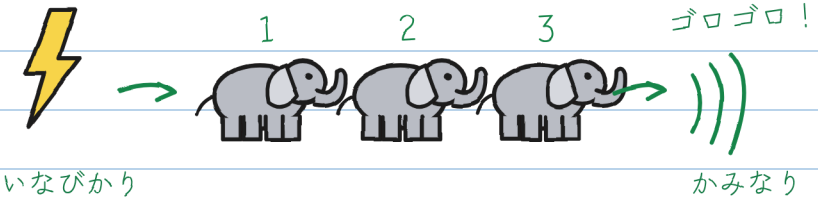
いった こと



ほんとうに おきた こと

ベッドの下のプロだね。 —J.

フリータはぼくのノートに、ことわりもなくあらしの数え方を書いた。いつものことだ：



ぞう1とう、ぞう2とう、ぞう3とう……

ぞう1とう＝1びょう

ぞう3とう＝1キロ（だいたい）

ぞう0とう＝まうえ！

↖ これが ラベルの かみなり。
とおくの かみなりでは あかない。

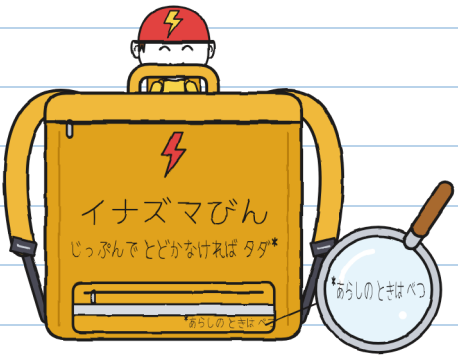
ぞうが おおい ほど、その いなびかりは とおくに おちた。

かみなりが きこえたら、とおくても：なかへ！

知っていることは、こわさがへる。 —J.

ぼくは何も数える必要がなかった。あらしはだいすきだから。でも念のため、書きとめておいた。

トニョはぼくのかたごしにラベルを読み、リュックの小さな字を見せた。
「イナズマ便は、あらしの日にはとどけない」
「まだあらしじゃないでしょ」とフリータ。
トニョは字をもう一度たしかめた。「まだ」とは書いてなかった。そしてついてきた。

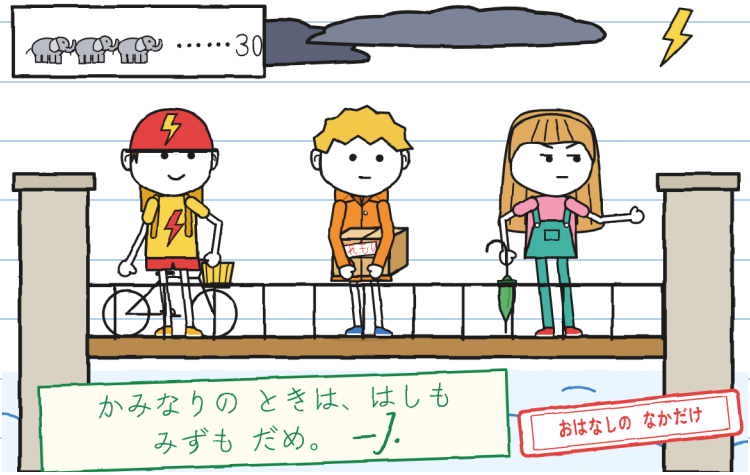


小さい字、大きい言いわけ。 —J.

五時に家へ行き、レインコートを取ってきた。
「オレンジのを着ていきなさい」とお母さんはドアから言った。「本当に行くの？ かみなりが鳴ると……」
「いってきまーす、お母さん！」

「鳴ると……」って？ —J.

ぼくたちはおおはしをわたった。夜になると船を通すために上がるはしだ。空はどんどん黒くなっていた。はしのまん中を通るとき、フリータは水に手をふってあいさつした。まじめくさった顔で：うんがとフリータはなかがよくない。



遠くで、空が光った。フリータは何も聞こえないまま、ぞうを30とう数えた。

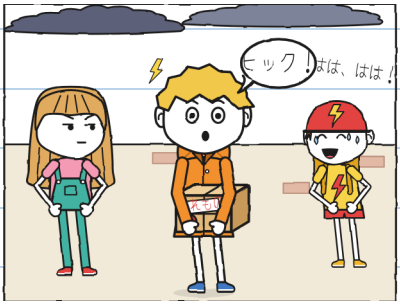
ゴロゴロ。

「あの稲光（いなびかり）は、十キロくらい先に落ちたのね」とフリータは言った。「天気予報（てんきよほう）だと、あらしは六時ごろ」

「かみなりが鳴った！」とトニョが言った。「もうあけてもいい？」

「あれじゃ荷物(いなびかり)はあかない」とフリータは言った。「ラベルのは、稲光と同時に鳴るやつ：ぞう0とう。でももう聞こえるから、それで十分：中にかくれよう！」
うんが通りまで走った。ぼくはかみなりなんか聞こえなかったふりをした。

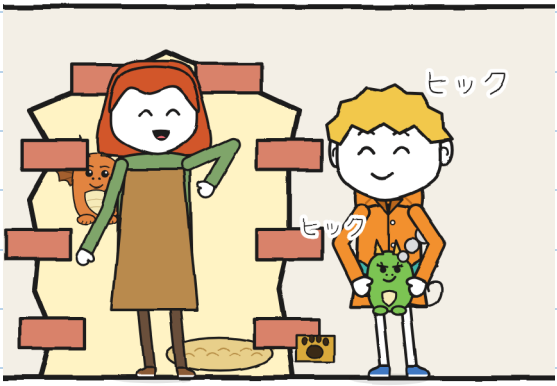
「今の、ヒック？」とフリータが聞いた。
「ちがう」とぼくは言った。「ヒック！」



小さいころからそうなんだけど、かみなりのときだけ：かみなりが鳴るたびにしゃっくりがつづけて出て、三秒に一回。あらしが真上に来ると止まらない。こわいんじゃない。体がぼくに相談もなしにやることだ。

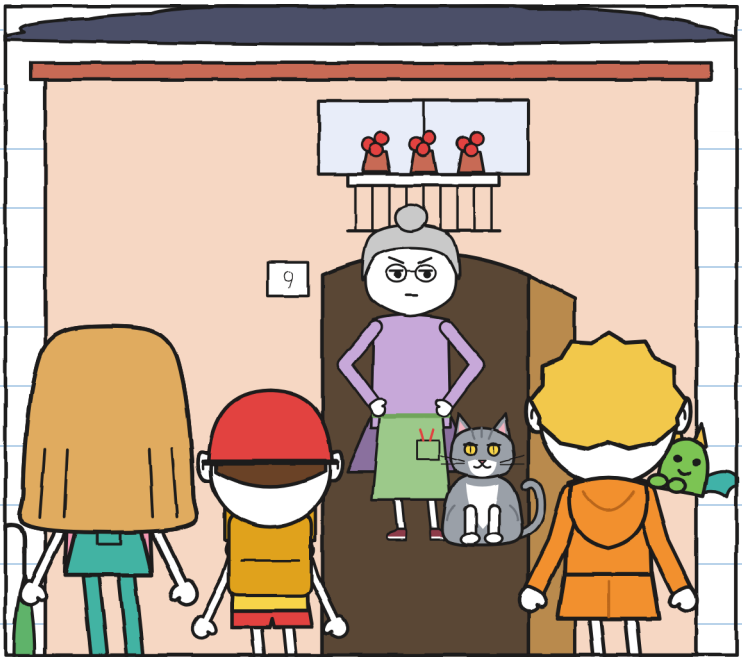
それをこわいって言うの。 —J.

ベラさんはもうドラゴンの家の入り口に立っていた。フローラの家のとなりだ。パンくずをだいて。土曜日は、パンくずはぼくとさんぽだ。
「フローラの家までよ。はじめてのあらしなの」とベラさんは言って、ぼくのうでにパンくずをのせた。「グニのまねを何でもする。気もちまで。おびえても、引っぱっちゃだめ：しがみつくから。あらしがすんだら、へいを三回たたいて。すぐさがしに行く」
「ぼくは何も感じないよ」とぼくは言った。「あらしはだいすきなんだ」



遠くでかみなりが鳴った。ぼくはヒック。パンくずもヒックと言って、はなからけむりを出した。
「すぐ中に入りなさい」とベラさんは言った。

フローラの家は、ゼラニウムの家だ。二週間まえの土曜日、ぼくたちがドラゴンの家の入り口をさがしていたとき、ベランダからぼくたちを見ていた女の人の家。あの入り口は、かべみたいに見える。



フローラは、ぼくたちがノックする前にドアをあけた。箱を見た。空を見た。パンくずを見た。
「ベラのところの子ね。わたしのシダを焦がさないでよ」と言った。「入りなさい、雨が来るよ。でも先に言っておくけど、わたしは石にはサインしないからね」

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは六つあって、3さいから16さいまで。ことばは20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**はページも絵も同じ。**XL**は小説。ちがうのは話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
フリータが ななつめの たねを つかまえる。

サイズ XS · A1
ゆかに たねが ひとつ のこって いた。フリータが つかまえた。ななつ。

サイズ S · A2
また いなびかり。ゆかには たねが 一つ のこって いた。フリータが つかまえた。七つ。

サイズ M · B1
次のいなびかりで、ゆかにのこっていたのはたねが一つ。フリータがつかまえた。七つ。

サイズ L · B2
また稲光が光ったとき、ゆかにはたねがただ一つのこっていて、フリータがつかまえた。七つ。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説・13+
CEFRのレベルは目安です。

みんな自分のサイズで。おなじあらし。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう